

令和4年度 小学部研究

I 研究テーマ

「児童生徒の自立的・主体的な生活につながる授業実践の取組」 ～ 自立活動の視点を踏まえた授業実践と評価・改善 ～

II 研究テーマ設定の理由

令和3年度より、新たに全体研究テーマに基づいた学部研究に取り組むにあたり、以下の3点を踏まえて学部研究テーマを設定した。詳細については令和3年度の研究の中間まとめ資料を参照いただきたい。

- 1 学校教育目標・学部教育目標から
- 2 これまでの学部研究から
- 3 児童の実態および学部職員のニーズから

III 1年次の研究について

1 研究内容与方法について

1年次の研究では主に以下の内容に取り組んだ。詳細は令和3年度の研究の中間まとめ資料を参照いただきたい。

- (1) 学部研究の基本構想と共通理解
- (2) 国語科および自立活動の年間指導計画作成と指導内容等の検討
- (3) 自立活動の目標・内容に関連付けた授業実践とPDCAサイクルによる授業改善の取組
(通常学級は国語、重複学級は自立活動コミュニケーションに焦点を当てた取組)
- (4) 授業づくりシートの活用とさらなる改善
- (5) 研究のまとめ

2 研究の成果と課題

一年間の研究を受け、1年次の成果と2年次の研究に向けた課題を以下にまとめる。

(1) 成果

① 国語科および自立活動の年間指導計画の作成と指導内容の吟味

年度当初に国語科および自立活動の年間指導計画を作成・見直しを行った。これにより年間を通して系統的に学習を積み重ねることができた。また、個別の指導計画をもとに、教科指導の中でどのように個々の自立活動のねらいにせまることができるか、という視点で指導内容を吟味することができた。

② 単元計画シートの活用

従来から使用している「単元計画シート」の改良を行った。具体的には「自立活動の目標」欄を追加し、これまでよりも自立活動と教科のねらいを明確に意識できるようにした。1年次には職員半数以上がこのシートの作成に関わり、その9割以上がシートの様式について「使いやすかつ

た」と回答した。また「自立活動の目標を達成するために単元をどう組み立てたかが分かりやすい」等の感想が多く寄せられた。

③ 授業改善の取組

全学級が一実践に取り組み、毎月の学部研究会で発表する機会を設定した。授業の動画をもとにして小グループでの話し合いを行い、具体的な授業改善のアイデアを出し合うことができた。職員アンケートでは「他学級の児童の実態や学習の様子を例年以上に知ることができた」「小グループでの協議は意見を出しやすかった」等の肯定的な意見が数多くあげられた。

④ 訪問学級の取組の周知

本校の訪問学級に在籍しているのは、小学部の2名のみである。普段は訪問学級担任が家庭を訪問して学習指導を行っているため、実際の様子を見る機会は小学部の職員であってもこれまでほとんどなかった。1年次の授業研究会では、リモートで訪問学級と通常学級をつないで学習の様子を全職員に見てもらうことで、訪問教育の実際と児童の様子を周知するよい機会とすることができた。授業研究会アンケートには「訪問学級の実践を初めて見た」という意見が多く聞かれるとともに、「五感を活用した児童との関わりが参考になった」等の意見が寄せられ、訪問教育にこれまで携わったことのない職員にとっても関わりのヒントを得る機会となった。

(2) 課題

① 各教科等と自立活動の関連について

1年次は国語科に焦点を当てた取組を通して、自立活動と教科のつながりを考えることができた。そのほかの教科・領域については2年次の研究の中でどのように関連付けた指導ができるか検討が必要である。

② 単元計画シートの様式について

単元計画シートの様式については「シンプルで良い」「負担なく書くことができた」等の肯定的な意見が多かった一方で、以下のような課題があげられた。

- ・単元計画シートと指導案を両方書くのは大変だった。中学部のように同じシートに盛り込むなど、簡単に書き込める形式がよい。
- ・単元目標と評価はリンクしていて書きやすいが、教科の指導内容と活動内容の関連付けが難しい。

これらの課題を踏まえ、より活用しやすい形式に改良できるよう検討していく。

③ 授業研究会および全体研究会での指導助言の内容から

授業研究会において、岩手大学大学院教育学研究科准教授の佐々木全先生から貴重なご助言をいただいた。助言の内容をおおまかに以下にまとめ、2年次に向けた課題とする。

○リモート授業における工夫

双方向のコミュニケーションを実現できるようにする。教員がテクノロジーを使いこなすことは大切だが、あくまでも手段である。何を目標に実施するのかを明確にすること。

○「生活による生活のための教育」という視点

「生活」とは単元のテーマである。それに即して自立活動の指導内容を選定していく。その際、「生活」と切り離すことのないように留意する。

○必要性と必然性

学習活動の取組内容を明確化すること。また、単元における目標および支援の手立て、その評価を明確にすることが大切。

○「支援の手立て」について

- ・授業改善の取組等については、その手立てに注目して、【ヒト（伝達と共感）】【モノ（道具と場の設定）】【コト（活動内容とその展開）】の観点で分類して整理するとよい。
- ・「目指すもの（〇〇のために△△する）」という観点で見る、考える。また、支援の意図が分かりやすいように「〇〇しやすいように△△する」のような記載の仕方にする。

IV 2年次の研究の内容と方法

- 1 1年次の研究に基づく2年次研究の基本構想と共通理解
- 2 自立活動の視点を踏まえた授業実践とPDCAサイクルによる授業改善の取組
- 3 単元計画シートの様式の活用と改善
- 4 研究のまとめ

V 研究計画 【表1】

月	期日、内容	主な内容
4	18日 学部研①	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度前沢明峰支援学校全体研究計画（案）の概要について周知 ・学部研究の方向性について確認 ・授業研究会の担当を協議
5	12日 学部研② 27日 全体研究会①	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の内容、計画等について協議 ・全体研究会提出資料の検討
6	16日 学部研③	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の推進（2年1組） （小）授業研究会提案授業指導案等の検討
7	8日 授業研究会①（小） 21日 学部研④	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の推進（6年1組、6年2組）
8	18日 学部研⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の推進（5年3組、3年1組） （小）授業研究会の反省
9	16日 学部研⑥ 28日 授業研究会②（中）	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の推進（1年1組）
10	20日 学部研⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の推進（4年1組）
11	11日 学校公開授業研究会 17日 学部研⑧ 18日 授業研究会③（高）	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の推進（1年2組、5年1組）
12	15日 学部研⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の推進（5年2組）
1	16日 学部研⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究のまとめ

		<ul style="list-style-type: none"> ・全体研究会②提出資料の検討
2	16日 学部研① 24日 全体研究会②	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究のまとめ ・全体研究会②提出資料の確認 ・学部研究の推進（1年3組、訪問学級）
3	10日 学部研⑫	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研究の反省 ・研究集録原稿の作成 ・次年度以降の研究について

VI 研究の推進にあたって

学部研究の推進にあたっては、全体研究のIVで提示されている「学校教育目標等から」「前次研究の課題から」「全体研究会の助言から」について留意するが、1年次の実践を受け、特に以下の点について学部全体で共通理解を進めながら取り組むこととした。

1 児童一人ひとりの自立活動の目標を意識した授業づくりとその手順

- ・各学級担任は児童の実態把握ののち、指導すべき課題の整理を行う。
- ・個別の指導計画の「自立活動」の重点目標を設定する。
- ・目標達成のために必要な項目を6区分27項目から選定し、具体的な指導内容を設定する。
- ・単元計画シートを作成し、授業実践に取り組む。
- ・授業の様子を録画し、協議の柱に沿ってグループ協議をする。成果と改善策を話し合い、ワークシートを用いて【ヒト・モノ・コト】の3観点で整理する。
- ・協議した内容をもとに支援の手立て等を見直し、授業改善に取り組む。

2 全体研究会の助言等から

(1) 目標、取組内容、手立て、評価の明確化（必要性と必然性）

目標・取組内容・手立て・評価を明確にすること。

(2) 「生活による生活のための教育」という視点

「生活」とは単元のテーマであり、それに即して自立活動の内容を選定していくよう留意する。

(3) 3観点（「ヒト・モノ・コト」）での支援の手立ての整理

支援の手立ては「ヒト（伝達と共感）」「モノ（道具と場の設定）」「コト（活動内容と展開）」の3観点で整理する。

VII 研究の実際

1 授業実践と授業改善について

今年度の研究実践の実際を、各月の学部研究会の内容に沿って以下にまとめる。なお、研究計画は【表1】を参照のこと。

(1) 1年次の研究に基づく、2年次研究の基本構想と共通理解について（4、5月学部研究会）

1年次の研究を受け立案した全体研究及び学部研究の内容について意見交換を行い、今年度の研究の方向性や具体的な内容について共通理解を行った。

(2) 各学級の実践発表およびグループ協議（6～2月学部研究会）

1年次に引き続き、今年度も全学級が一実践に取り組み、学部研究会での提案を行った。各学級の実践については【表2】のとおりである。

通常学級では国語・算数等の教科指導の中で自立活動の視点を踏まえた授業づくりに取り組み、重複学級・訪問学級では自立活動の指導の時間において実践を行った。

【表2】令和4年度の実践一覧

学級	単元名	教科等
1年1組	朝の活動	日常生活の指導
1年2組	いろいろなものの名前	国語
1・2年3組	姿勢保持	自立活動
2年1組	クイズをしよう！	国語
3年1組	いろんなかたち	算数
4年1組	掃除をしよう	日常生活の指導
5年1組	長い・短い	算数
5年2組	季節の歌をたのしもう（冬）	音楽
5年3組	自分の気持ちを表現しよう	自立活動
6年1組	いくつといくつ	算数
6年2組	名前クイズをしよう！	自立活動
訪問学級	リラックスして心地よくなるよう	自立活動

次に、学部研究会での授業改善の取組について、おおまかに以下に示す。基本的な進め方は【表3】のとおりである。なお、今年度からグループ協議では【図2】に示す支援の手立てのまとめシートを用いて整理することとした。この形式は佐々木全准教授の助言をもとに作成したものである。

【表3】学部研究会の基本的な流れ

①授業の提案（10分）	<ul style="list-style-type: none"> ・単元計画シートをもとにした授業者からの説明 ・授業動画の視聴
②グループ協議（15分）	<ul style="list-style-type: none"> ・4～5名程度の小グループによる協議（協議の柱は授業者および実践研究部が設定） ・支援の手立てのまとめシートを用いて【ヒト】【モノ】【コト】の3観点で支援の手立てを整理する【図2】
③発表・全体共有（5分）	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表および全体での共有
④授業者より（5分）	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの意見を受けて、今後の授業改善の見通しを説明



【図1】グループ協議の様子

協議の柱

ヒト(伝達と共感)	モノ(道具と場の設定)	コト(活動内容と展開)

R4 小学部研究会 協議シート(「できる状況づくり」の具体的内容)

【図2】支援の手立てのまとめシート

(3) 実践例 3年1組 算数「いろいろなかたち」

ここからは、実践の一部を取り上げ、具体的な授業改善の取組および児童の変容について記述する。

①授業実践の概要(対象児童2名)

小学部3学年には2名の男児が在籍している。実態差が大きいですが、一斉授業形式で算数を学習している。本単元では、算数の目標および自立活動の目標を明確に設定し、授業を実施した。

自立活動の指導項目6区分27項目から、本単元では【環境の把握(1) 保有する感覚の活用に関すること】を指導する際のキーワードとして、実際にさまざまな形のものに触れながら丸・三角・四角の違いに気付き、形ごとに分けたり集めたりすることを目指して授業を構成した。

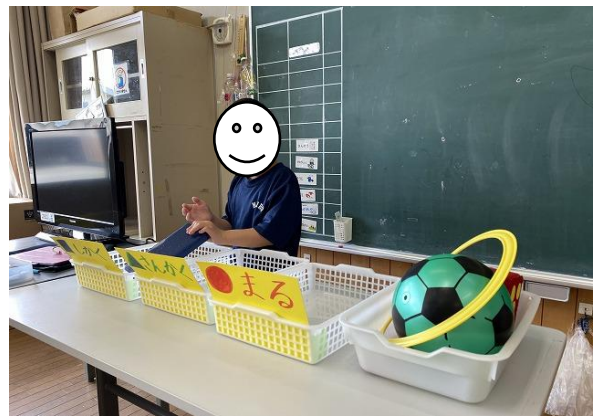
単元名	いろいろなかたち	教科名	算数	指導者	T 1 久保田望・T 2 佐々木陽菜
自立活動の目標	A ・気持ちを落ち着けて学習活動に参加する【心理的な安定(1)情緒の安定に関すること】 B ・教師の問いかけをよく聞いて、答える【コミュニケーション(2)言語の受容と表出に関すること】 ・見たり触ったりして特徴を感じる【環境の把握(1)保有する感覚の活用に関すること】※二人に共通				
単元の目標	知識・技能	形の違いに気づき、集めたり分けたりすることができる。			
	思考力・判断力・表現力	身の回りのものの形に注目し、同じ形がどれか考えたり選んだりする。			
	学びに向かう力、人間性等	いろいろな形に興味をもち、進んで活動に取り組むことができる。			
関する教科・領域	主な指導内容				
算数	B 図形1段階（ア）⑦形が同じものを選ぶこと。				
	B 図形2段階（ア）⑦身の回りにあるものの形に関心をもち、丸や三角、四角という名称を知ること。				
	B 図形2段階（イ）⑦身の回りにあるものの形に関心を向け、丸や三角、四角を考えながら分けたり、集めたりすること。				
単元計画（日時・次）	活動名	時数	主な活動内容		
1次	いろいろな形を知ろう	5	①かたちクイズ1（iPad パズルアプリ使用） ②わけてみよう（ボール・さいころ等）		
2次	分けてみよう、さがしてみようⅠ	5	①かたちクイズ2（iPad パズルアプリ使用） ②わけてみよう（ボール・さいころ・おにぎり等） ③どーれだ（はてなボックスから具体物を選び取る活動）		
3次	分けてみよう、さがしてみようⅡ	5	①かたちクイズ2（iPad パズルアプリ使用） ②わけてみよう（教室にある身近なものを追加） ③どーれだ（2次で使用した教材+新しいアイテム追加）→校内ウォークラリー		
評価の観点（単元）		成果（○□△）※と課題（▲）		改善策	
知・技	身近なものを形ごとに分けたり、集めたりすることができたか。	○形に注目し、正しく分けたり名称を答えたりすることができた。		身近なものの形に気付くように、校内を歩いてさまざまな形探しをする。	
思・判・表	手で触って箱の中にあるものの形を考えたことができたか。	○箱の中を見ずに触って形をとらえ、1つを選び出すことができた。		少しずつ難度を上げるため、箱の中身を増やしたりする。	
主体性	見通しをもって自分から活動に取り組むことができたか。	○活動のやり方がわかり、自分から繰り返し取り組むことができた。		引き続き、活動内容を一定にして見通しをもてるようにする。	

※自主的・主体的に行動したとき○ 注意喚起を要したとき□ 行動の指示を要したとき△

【図3】単元計画シート（3年1組）



【図4】iPad 算数アプリを用いた学習



【図5】わけてみよう（身近なものの分類）

1次では、iPadの算数アプリを活用して、形のマッチングに取り組んだ。丸、三角、四角など様々な形の違いに注目して、正しく組み合わせることができた。また、『わけてみよう』では、ボールやおにぎりの模型などの身近なものを形ごとに分類したり、「丸」「三角」「四角」という名称を正確に答えたりすることができるようになった。

2次では、中身の見えない箱（はてなボックス）に模型を入れ、手探りで形を判別して取り出す活動を設定した。感覚刺激を活用したこの課題では初めは間違いが多かったものの、具体物に触れる感覚に集中して取り組むことで徐々に正答できるようになった。取組の様子を見ながら模型の数を増やすなど負荷を調整することで、適度な難易度となるよう工夫した。

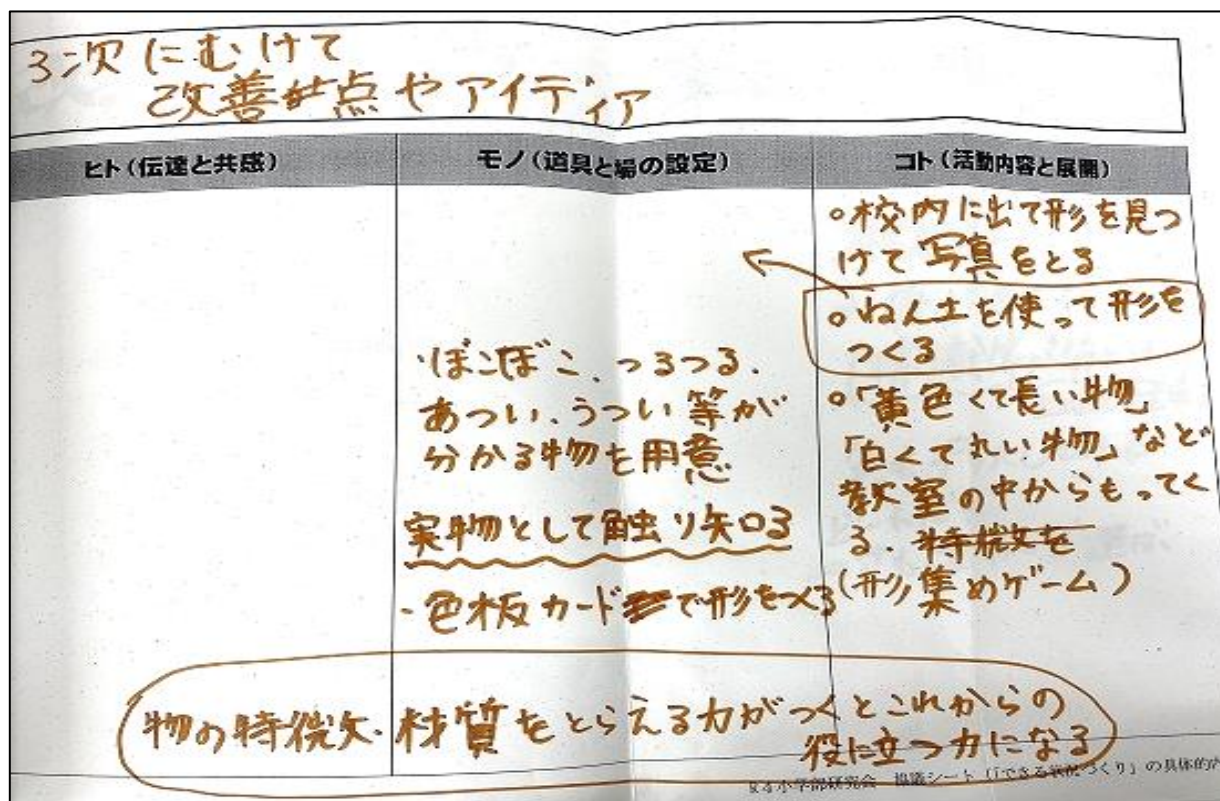
8月の学部研究会では、1～2次までの取組の様子を動画をもとに説明した後、以下のような協議の柱を設定し、学部職員で意見交換を行った。

協議の柱

身に付けた知識・技能を生かし、3次ではどのような活動を展開していくか。
(形についての知識・技能を実生活のどのような場面で生かすことができるか)

【表4】グループ協議で挙げられた意見

ヒト	モノ	コト
<ul style="list-style-type: none"> ・「生活」につなげようと意識しすぎない ・色と形などを組み合わせて伝える(例「白くて丸い」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土を使って形を作る ・厚い、薄い、ポコポコ、ツルツルなど素材の幅を広げる ・平面から立体へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォークラリー形式で校内を歩いて形を探す ・校内にある形を探して写真を撮る ・教室内にある○△□を探す(抽象から具体への逆) ・完全な○と不完全な○の比較→検品など弁別作業へつながる ・大小種類を増やす ・競争、ゲーム性をもたせる



【図6】支援の手立てのまとめシートの一例

②授業改善の取組

学部研究会での話し合いを踏まえ、身に付けた知識・技能を生かし、より実生活に即した内容を展開するために、3次では「校内ウォークラリー」を取り入れることとした。児童用の iPad を用意し、丸いもの、三角のもの、四角のものを見つけたら写真を撮ることとした。

③実践を通しての児童の変容

Aさんは授業中に立ち歩く場面が多く、プリント学習に対して学習意欲を持ちづらい実態があった。本単元では、具体物を分類する活動のほか、視覚情報に頼らず手指の感覚を活用した活動を設定したことで、課題に集中して落ち着いて取り組む姿が見られた。また、繰り返しチャレンジする中で正確に答えることができるようになり、正解すると笑顔が見られるようになった。これは、自立活動の視点を踏まえた授業づくりによって、児童が「分かった」「できた」という実感をもてたためだと考える。

Bさんは学習前と比べて、身近なものの形に気付くようになった。3次で実施した校内ウォークラリーでは、非常口の案内板を指さして「これは四角だ」と話したり、ベルのボタンを見て「小さい丸だ」と話したりするなど、形はもちろん大きさにも着目できるようになった。また、休み時間には形パズルに興味をもち、いくつかの形を組み合わせて「船」「家」「ロケット」など、イメージをふくらませて遊ぶ姿が見られた。学習を通して形に対する興味関心の幅が広がり、実生活に生かすことができるようになったことが大きな成果であると考えられる。



【図7】休み時間に形パズルで遊ぶBさん

(4) 授業研究会の実施について

全体研究の中で計画している授業研究会については、2年1組の国語科の授業を提案授業として設定して実施した。概要を【表5】に示す。

【表5】第1回授業研究会の概要

日時	令和4年7月8日（金）
提案授業の内容	小学部2年 国語科「クイズをしよう！」 （7月1日（金）4校時実施）
対象	小学部2年
授業者	高橋亜湖教諭（T1）
研究会の参加者	53名（指導助言者1、授業者1、進行1含む）
指導助言	岩手大学大学院 佐々木全准教授

授業研究会においては、参加者を6つのグループに分けて授業の成果と課題および改善策について協議を行い、その内容をワークシートにまとめた。そのワークシートの記述からテキストマイニングによるキーワードの抽出とそれらの関係性を図式化した共起ネットワーク図の作成を行い、成果と課題をま

とめた。これらを【表6】に示す。

【表6】授業研究会の成果および課題

成 果	<p>A：児童の実態に合わせた教材を提示し、学習場面で注視ができていた。</p> <p>B：電子黒板の有効活用により、意欲をアップさせることができ、興味関心に合わせた使い方ができていた。</p> <p>C：お楽しみタイムの設定で主体的に取り組む姿が見られた。</p> <p>D：視覚支援により、適切な声の大きさを話すことができていた。</p> <p>E：(教師の指示に応じ)自分で文字(絵)カードを貼ることができた。</p>
課 題	<p>A：絵カード、文字カードを選んだり、貼ったりする活動において、注視や図と地の弁別が難しい場合の支援。ヒントの提示や教具等の準備の仕方について。</p> <p>B：より児童の実態に適した教材(イラスト、写真等の使い方等)、発問で提示する言葉等の吟味。書く、話す、伝える等の活動の設定。</p> <p>C：児童が学習に集中できるようにするための電子黒板や座席の配置。</p> <p>D：児童の離席対策のための座席配置などの工夫。</p>

(5) 職員アンケートの実施と集計・分析

令和4年12月に、学部職員を対象にアンケートを実施した。これらを集計、分析した結果を以下にまとめる。(アンケート回収率：95%)

①単元計画シートについて

単元計画シート(小学部) 【 年 組】 ※対象が個人の場合は氏名を記入 R 4 ver.

単元名	教科名		指導者
自立活動の目標	※個別の指導計画から転記		
単元の目標	知識・技能		
	思考力・判断力・表現力		
	学びに向かう力、人間性等		
関する教科・領域	主な指導内容		
例：国語	3段階 ア(エ)言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと(カ)正しい姿勢で音読すること		
単元計画(日時・次)	活動名	時数	主な活動内容
評価の観点(単元)		成果(○□△)※と課題(▲)	改善策
知・技	～することができたか		
思・判・表			
主体性			

※自主的・主体的に行動したとき○ 注意喚起を要したとき□ 行動の指示を要したとき△

【図8】単元計画シート(令和4年版)

今年度使用した単元計画シートについて職員アンケートを行った結果、8割以上の職員が「使いやすい」と回答した。また、「自立活動の視点を意識することができたか」という問いでは、8割以上の職員が「意識できた」と回答した。実際に使用してみたの感想として、以下のような意見が挙げられた。

- ・作成が負担にならず、ちょうどよい。
- ・自立活動の目標と各教科の関連が読み取りやすい。
- ・グループ協議において、「より自立活動の目標にせまるには」という話し合いにつなげやすい。
- ・ポイントが明確で指導しやすくなった。
- ・何を重点にするかによって、柔軟にカスタマイズできる様式だと思う。

一方で、改善が必要な点として次のような意見が挙げられた。

- ・学級全体、単元ごとに使用するの難しい。
- ・個人目標の書き分けが難しい。
- ・終了後の評価を書き忘れてしまう。授業後も活用できると良い。
- ・自立活動の目標欄の下に、さらに具体的に自立活動の指導内容を記入する欄があるとよい。

改善点については1月学部研究会で共通理解を図り、次のような取組をすることを確認した。

- ・終了後の評価記入について
入力期限を設け、年度内に全実践の評価記入を完了すること。また、記入したものは実践研究部がファイリングして保管する。
- ・自立活動の指導内容の記載方法について
「自立活動の目標」欄の下に、自立活動の指導項目（6区分27項目）を記入する欄を新設するかを次年度以降、再検討する。（研究テーマによっては単元計画シートの様式を現行のものから変更する可能性があるため）

②職員の意識の変化について

「授業実践の前後で授業づくりへの意識はどう変わりましたか」の問いに対する回答として、大きく4つの変化が挙げられた。

- 授業づくりに対する意識の変化
 - ・自立活動と教科の関連を意識するようになった。
 - ・普段の授業でも自立活動の視点をもてるようになった。
 - ・指導要領（自立活動編）を意識して授業を考えられた。
- 学部研究会を通しての新たな気付き
 - ・他クラスの様子を見て、指導法や授業づくりについての学びを深められた。
 - ・職員間で意見交換をすることで、さまざまな視点に気付くことができた。
- 授業改善への意欲
 - ・職員間で目標を共有でき、同じ方向性で支援ができた。

- ・実践発表をすることで、客観的な意見をもらえて不安が少なくなった。
- ・授業改善のアイデアをもとに教材を見直し、児童に合った学習にできた。

○一斉授業の在り方の模索

- ・一斉授業形式でどんな学習活動ができるかを考える機会となった。
- ・個別学習だけではなく、一斉授業も一部取り入れるようになった。

③児童の変容について

「実践を通して児童はどのように変わりましたか」という問いに対して、主に【学び合い】【知識・技能の習得】【学習態度や意欲の高まり】の3つの観点から次のような回答が得られた。各キーワードについて具体的に述べる。

【学び合い】

- ・実態差があるが、互いに関わり合って学習するようになった。
- ・間違いに気付いたり、友達や教師に教えたりするようになった。
- ・これまでよりも周りの子を意識して学習するようになった。

【知識・技能の習得】

- ・算数や国語などの教科の力がついた。
- ・できること、分かることが増えた。
- ・(重複学級の児童も)自分で選ぶことができるようになった。
- ・日常の中でも学習したことを生かす場面が見られた。

【学習意欲の向上】

- ・見通しをもって活動に参加できるようになった。
- ・先生の話の聞こうとする意識が出てきた(姿勢、視線など)
- ・落ち着いて学習に取り組めるようになった。

(6) 有効だった支援の手立ての整理

2年次の実践を通して、様々な児童が主体的に学ぶ姿を引き出すことができた。その要因について学部職員で検討し、実践した支援の手立てを「ヒト」「モノ」「コト」の3観点に沿って整理した。その結果、【学び合い】【知識・技能の習得】【学習態度や意欲の高まり】がキーワードとして挙げられた。各キーワードとそれらを引き出す有効な手立てについてまとめたものを以下に示す。

【表7】主体的に学ぶ姿を引き出すための有効な手立て

	学び合い	知識・技能の習得	学習態度や意欲の高まり
ヒ	・ミニ先生として活躍の場を設ける	・学習の到達点を明確に設定する	・児童主体となるよう、教師の人数や配置の工夫
ト	・児童同士をつなげるような発問	・目標を児童と共有する	・学習の目標、テーマの共有
	・教師があえて間違ふことで	・共感的、プラスの声掛けによる意欲向上	・一斉指導をベースに、必要な児童への個別支援

	気づきを促す	<ul style="list-style-type: none"> ・教師も共に活動する姿勢 ・専門家（PT・OT）の助言に基づいて教師が確かな知識・技能を身に付ける 	
モノ	<ul style="list-style-type: none"> ・座席の工夫（友達の様子が見えるような配置） ・興味関心をひく魅力的な教材（好きな食べ物やキャラクター等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・できたことを可視化するツール ・児童の実態、特性に応じた学習ツール ・手順表、予定表の活用 ・場の構造化 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚教材（カード）の提示（座る、聞く、話す等） ・場面に応じた座席配置 ・実物の活用 ・iPadの活用 ・電子黒板の活用 ・教室の構造化
コト	<ul style="list-style-type: none"> ・わかった児童が手本になるような発表順の工夫 ・同じ教材でも個々に応じた課題設定をする ・児童に適切な役割をあたえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間、繰り返し取り組むこと ・活動の見通しをもてるようにする ・スモールステップで発展性をもたせる ・発表の場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝わりやすく、分かりやすい授業の提供 ・授業の流れを一定にする ・「できる」を実感できるように繰り返し取り組む

Ⅷ 研究のまとめ

1 成果

（1）一年次研究の課題から

①各教科と自立活動を関連づけた実践の実施

1年次は国語科および自立活動の【コミュニケーション】に焦点を当てた実践に取り組んだが、今年度はさらに教科の範囲を広げ、算数や音楽においても自立活動の視点を踏まえた授業づくりを行い、各教科における成果と課題を明らかにすることができた。

②単元計画シートの活用について

職員アンケートからも分かるように、学部職員の8割以上が単元計画シートの使い方に慣れて、スムーズに作成することができた。また、学部研究会の協議においても、教科や自立活動のねらいを共通理解するツールとして有効に活用することができた。

（2）授業改善の取組から

①児童の主体性を引き出す授業づくり

「教科指導」と「自立活動」を分けて捉えるのではなく、「自立活動の指導が教科の力を支える」という意識をもとに授業づくりに取り組む中で、各実践において主体的に学ぶ児童の姿を引き出すことができた。

②3観点での支援の手立ての整理

佐々木全准教授による指導助言をもとに、今年度は支援の手立てのまとめシートを活用して

「ヒト」「モノ」「コト」の3観点で整理した。1年次と比べ、グループ協議でより具体的な意見を出しやすくなったほか、話し合いの方向性のずれが少なくなり、職員間で意見を共通理解して授業改善につなげやすくなった。

③指導方法・内容の共有

学部研究会における授業実践発表を通して、普段は見る機会の少ない他学級の児童の実態や教科および自立活動の指導の実際を共有する貴重な場とすることができた。動画で学習の様子を見ることで児童の新たな一面を知り、担任以外の職員も児童理解を深めることができた。また、グループ協議を通して得られた授業改善のアイデアは、他学級でもすぐに生かすことのできるものも多く、職員の支援の質を高めることにもつながった。

④有効な支援の手立ての整理

実践を通して「児童が主体的に学ぶ姿」を引き出すことができた要因を学部職員で話し合い、整理してまとめることができた。今後、研究テーマが変わっても普遍的な支援の在り方として生かしていけると考える。

2 課題

(1) 単元計画シートの活用に向けて

学部研究会での実践発表時において有効に活用することができた一方で、実践終了後の評価を記入していないケースが多く見られた。実践を終えての評価を確実に実施し、授業改善の手掛かりとして活用していけるような仕組みづくりが今後必要である。

(2) より効果的な指導形態の在り方について

小学部では各教科における一斉指導形式での授業づくりに力を入れてきた。個への支援ありきではなく、集団の中で学び合う姿を目指して学習内容や手立てを工夫することで、友達に働き掛けたり、友達の良い手本を真似てできることを増やしたりする場面が数多くの実践で見られた。この指導形態の効果については今後も検証するとともに、より効果的な指導形態の在り方を模索していく。

(3) 授業研究会での指導助言から

「Ⅶ 研究の実際」「(3) 授業研究会の実施について」に前述の第1回授業研究会において、岩手大学大学院の佐々木全准教授からいただいた指導助言の内容を大まかにまとめ、次年度以降の実践の課題とする。

①授業の目標論

○授業の位置づけを明確にすること。

実践においては単元の目標が学校教育目標のどの部分にあたるのかを明らかにすること。

○授業で得た力が、生活のどの部分に役立つかを考えること。

知的障害における教科内容の意義は生活に資すること。各教科が生活文脈との関連の中で構想されること。

②支援の手立て論

「ヒト」「モノ」「コト」の3観点で支援の手立てを発案・発見し、課題分析や教材研究に生かすこと

③評価論

- 観点別評価：知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等
- 授業改善の3つの視点：主体的な学び「むかう」、対話的な学び「まじえる」、深い学び「いかす」

【参考・引用文献】

- (1) 特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領, 文部科学省, 2017
- (2) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編 (小学部・中学部), 文部科学省, 2018
- (3) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部), 文部科学省, 2018
- (4) 「自立活動ってなんだろう?理解編・実践編」島根県教育センター, 2020
- (5) 前沢明峰支援学校 令和3年度全体研究 (中間まとめ), 前沢明峰支援学校HP, 2022
- (6) 前沢明峰支援学校小学部 令和3年度小学部研究 (中間まとめ), 前沢明峰支援学校HP, 2022
- (7) 佐々木全, 令和4年度前沢明峰支援学校第1回授業研究会 指導助言資料, 2022